

内務省地理局第四回年報

沿革

本局本周年ノ沿革ハ明治十二年五月十五日山林課ヲ廢シ更ニ山林局ヲ置カレ山林ニ關スル事務ヲ該局ノ掌管ニ属セラル

測量

全國三角測量

基線測量

全國三角測量ノ事業タル既ニ明治十一年六月基線ヲ下野國奈須郡西原ニ測定シ其南端ヨリ北端ニ至ルノ距離ニ里ニ拾五町ニ拾五間三尺四寸二分四厘九四七ヲ得タ

リ此測量タルヤ米國製ニ等三角測量ニ用ヒタル測竿ヲ以テニ四ノ測量ヲナセシニ其差總カニ一寸二分ニ過

測地

沿革

内務

基線測量ハ三角測量ノ基本タルヲ以テ英國「ハンスロ」  
ヘツツノ地ニ於テ當初有名ノ學士種々ノ工夫ヲ費シ之  
ニ用エルニ最上等ノ木材ヲ以テ測竿ヲ作りシト虽氏尚  
其差異ヲ免カレサルニ依リ再玻璃竿ニ換ヘ以テ其基線  
ヲ測量セリ蓋シ玻璃竿ハ寒暖ニ伸縮スルノ差至テ小ナ  
ルヲ以テ大ニ木竿ニ優レリト虽氏尚其精密ニ至ラサル  
ヲ慮リ其後鋼鏈ヲ用ヒテ又同所ヲ測量セリ其各種ノ測  
竿ヲ以テ測リ得タル基線ノ差異ハ

木竿ヲ用ヒテ測リタルモノ 二七四・六英尺二六

玻璃竿ヲ用ヒテ測リタルモノ 二七四・四英尺〇八四三

鋼鏈ヲ用ヒテ測リタルモノ 二七四・四英尺三一五五

右三回ノ内第一ハ其差最モ異ナルアルヲ以テ之ヲ問ハ  
ス第二第三ヲ折衷シテ以テ其各邊ヲ算セシニ軌近「ロ」

ホイールニ定メタル基線ニハ猶一層注意シテ銅鍊相合セ  
タル測竿ヲ用ヒ寒暖伸縮ノ差ヲ平均セシメタリ之レ英  
國基線測量ノ最モ精密ナルモノニシテ以テ今日ニ稱セ  
ラルト云フ其差ハ八英里ノ長サニ僅カニ二「インチ」ナ  
リ而シテ現今奈須西原ノ基線タルヤ其二回ノ差之レヲ  
英里ニ比シテ六里ノ長サニ一「インチ」セリ得タリ抑々第  
一着手ニ於テ茲ノ如キ精密ノ數ヲ得タルハ實ニ意外ノ  
幸ト謂ハサルヲ得ス而シテ漸次大三角ノ擴張スルニ從  
ヒ他年又第二ノ基線ヲ某所ニ撰定シ以テ之ヲ正サハル  
ヲ得ス此時ニ及ハ、本局亦別ニ準備スル處ノ精器ヲ用  
ヒ而シテ新撰基線ヲ細測シ以テ愈々確實ノ數ヲ求メ以  
テ前測トノ互差如何ヲ徴シ且以テ前後所用セシ甲乙兩  
竿ノ得失孰レヲ試ミニントス

選点及測角

下野國奈須郡西原ノ基線ニ本キテ漸々大三角ヲ擴張セシカ為メ既ニ二組ノ選点手ヲ派遣シ前年ニ次キテ大ニ諸山ニ測点ヲ撰ハシメ乃チ東ハ常陸及上下總國ヨリ西ハ上野越前加賀能登國ニ涉リ北ハ磐城岩代羽前越後佐渡國ヨリ南ハ武藏相模駿河ノ諸國ヲ經而シテ査選シタル其數約子二十有六ノ測点ヲ定メ且別ニ貳組ノ測角手ヲ常陸上下總上下野越後等ノ諸國間ニ派遣シテ角度ノ測量ニ從事セシメタリ而シテ器械ハ英國製造ニ係ルモノヲ用ヒ測地ノ方法ハ歐洲ノ規程ニ基キ數回ノ精測ヲ施シ而シテ本周年中ニ卒業スル所ノ点数三ヶ處ニ及ヒタリ願フニ本年ノ如キハ測角ニ係ル卒業ノ箇所僅カニ三ヶ處ニ止マリ其奏功甚々寡キニ似タリト虽此着手

經緯測量

ノ日尚淺クシテ當初自カラカヲ選点ニ專ニセシト諸点ノ距離ノ數拾里ニ涉ルヲ以テ事業ノ容易ナラサルトニ由レハナリ

大三角所關ノ要所ニ於テハ必シモ天躰ヲ實驗シ以テ經緯ノ度數若干ヲ測定セスンハアルヘカラス是ヲ以テ第一

一ニ下野國那須郡西原ニ於ル基線南端ノ經緯測量セシ為ニ同國河内郡宇都宮駅外塙村ハ幡山ノ經緯測量セシ為メ昨十一年十月二名ノ測手ヲ出ス抑經緯測量ニ於テ其難易孰レヲ論スレハ緯ニ在テハ一舉以テ能ク近似ノ數ヲ獲ヘク經ハ之ニ反シ數年之ニ從事スルモ尚ホ或ハ分數ヲ得ル難シ然ルニ輓近電信ヲ以テ彼是兩地ノ經差ヲ協測スルノ法大ニ世ニ行ハルニ至ツテ頗ル經度精測

略

ノ捷路ヲ得而ノ下野國那須西原ノ基線及ヒ埴村八幡山ノ測点タル幸ヒニ陸羽ニ架スル所ノ電信線路ニ近キヲ以テ一ハ下野國那須郡大田原一ハ下野國河内郡宇都宮驛ヨリ更ニ支線ヲ架設シ以テ皆十觀測處ニ連セシメタリ元來本線ノ如キハ陸羽仙臺ヨリ直ニ東京築地中央局ニ至ルモノニ係ハリ之レヲ測量課ニ導クニハ該中央局ヨリ葵町工部省ニ至ルノ架線ニ憑リ以テ測量課ニ通セシメタリ而シテ電信協測ヲ行クヤ必スシモ天晴ノ日ニ於テ午後九時ニ起テ十時ニ卒フ茲ノ如ク前後兩次勉メテ天候數個ヲ測リ以テ各々時辰儀ヲ正フスルヲ旨トセリ之レ歐米諸國ノ學士近世電信ニ依テ經度ヲ定メ天頂儀ヲ用ヒテ緯度ヲ測ル良方添テ採テ着手シタルナリ今茲ニ結果ヲ示スヲ左ノ如シ

東京溜池葵町ニ番地測量課ヨリ起算

下野國那須郡那須西原基線ノ南端 東經零度十四分十九秒五。  
疑差 零秒三六

同 北緯三十六度五十分四秒七  
疑差 零秒六八

同 北端 北緯三十六度五十五分十四秒六。  
疑差 零秒七八

東京同所ヨリ起算

下野國河内郡宇都宮外埴村八幡山測点 東經零度八分三十四秒五。  
疑差 零秒三五七

同 北緯三十六度三十四分八秒六二  
疑差 零秒四二

國界測量

國界測量ノ業ハ既ニ前年ノ着手ニ續キテ完ク安房上總

國界測量

要地測量

國ノ國界ノ了シ正ニ伊豆相模ノ國界ニ着手セリ武藏全  
國ノ如キハ蓋シ久シカラスシテ成功ヲ奏スルヲ得ヘシ

要地測量

要地測量ノ業ハ東京大坂横濱ノ三所ニ在リ既ニ大坂横  
濱ハ去ル明治九年ニ於テ其測量畧ニ成功セシト雖氏之  
ヲ今日ニ整頓スルニ當リ聊カ改定補測ヲ可要モノアリ  
依テ本周年ニ於テ更ニ大坂横濱ノ補測ニ着手シ將ニ功  
ヲ全フビセントス東京府下三角測量ハ既ニ卒業スト雖氏  
其各區ノ測量圖ヲ八年ノ火災ニ罹リ烏有ニ歸シタルモ  
ノヲ再測スルケ所ヲ二十六部ニ分チ其二十一部ハ既ニ  
卒業シ現今僅カニ五部ヲ贏ヒシノミナレハ全竣ノ期將  
ニ近キニアラントス

測候

測候

氣候觀測ノ業タル固ヨリ各所ノ比較ヲ待チテ始メテ其  
功ヲ奏スル者ニシテ特ニ本局某所ニ於テ觀測スルノミ  
ニテハ氣候ノ變動等明知スルヲ能ハサルヲ以テ既ニ前  
年度ニ於テ長崎兵庫仙臺青森新潟等ノ各所ニ漸次測候  
所ヲ設クルノ許可ヲ得尚本年度ニ於テ更ニ廣島縣ニ測  
候所ヲ新設スルノ許可ヲ得テ爾來之ニ從事セリ  
測候表ハ前年度ニ於テ其體裁ヲ一變セシヨリ倍々外國  
人ノ信用ヲ得タリ故ニ本年度ニ於テ伊太里露思亞ノ二  
國ト同時ノ觀測ヲ為シテ交換スルヲ約シ又清國上海  
シカゴニ於ル佛國教會ノ氣象臺ノ請求ニヨリ交換ス  
ルヲ諾セリ素上海ノ氣象表ハ吾カ日本海大風ノ所由  
ヲ蹤跡スルノ益尠ナシトセス尚他日北京香港廈門等ノ  
測候所ト氣象表ヲ交換スル片ニ至テハ亦沖繩縣小笠原



島等ニ測候所ヲ置キテ之レヲ比較シ大ニ航海ノ便益ヲ  
 開興セントス今明治十  
 一兩年ニ係ル氣象比較表  
 ヲ掲ク

明治十一年一月一兩年東京氣象比較表

日	東京		兩年		平均		地氣		雨量		天候		風	
	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低
1	15.0	5.0	14.0	4.0	14.5	4.5	15.0	5.0	10.0	5.0	晴	北	1.0	1.0
2	16.0	6.0	15.0	5.0	15.5	5.5	16.0	6.0	12.0	6.0	晴	北	1.0	1.0
3	17.0	7.0	16.0	6.0	16.5	6.5	17.0	7.0	15.0	7.0	晴	北	1.0	1.0
4	18.0	8.0	17.0	7.0	17.5	7.5	18.0	8.0	18.0	8.0	晴	北	1.0	1.0
5	19.0	9.0	18.0	8.0	18.5	8.5	19.0	9.0	20.0	9.0	晴	北	1.0	1.0
6	20.0	10.0	19.0	9.0	19.5	9.5	20.0	10.0	25.0	10.0	晴	北	1.0	1.0
7	21.0	11.0	20.0	10.0	20.5	10.5	21.0	11.0	30.0	11.0	晴	北	1.0	1.0
8	22.0	12.0	21.0	11.0	21.5	11.5	22.0	12.0	35.0	12.0	晴	北	1.0	1.0
9	23.0	13.0	22.0	12.0	22.5	12.5	23.0	13.0	40.0	13.0	晴	北	1.0	1.0
10	24.0	14.0	23.0	13.0	23.5	13.5	24.0	14.0	45.0	14.0	晴	北	1.0	1.0
11	25.0	15.0	24.0	14.0	24.5	14.5	25.0	15.0	50.0	15.0	晴	北	1.0	1.0
12	26.0	16.0	25.0	15.0	25.5	15.5	26.0	16.0	55.0	16.0	晴	北	1.0	1.0
13	27.0	17.0	26.0	16.0	26.5	16.5	27.0	17.0	60.0	17.0	晴	北	1.0	1.0
14	28.0	18.0	27.0	17.0	27.5	17.5	28.0	18.0	65.0	18.0	晴	北	1.0	1.0
15	29.0	19.0	28.0	18.0	28.5	18.5	29.0	19.0	70.0	19.0	晴	北	1.0	1.0
16	30.0	20.0	29.0	19.0	29.5	19.5	30.0	20.0	75.0	20.0	晴	北	1.0	1.0
17	31.0	21.0	30.0	20.0	30.5	20.5	31.0	21.0	80.0	21.0	晴	北	1.0	1.0
18	32.0	22.0	31.0	21.0	31.5	21.5	32.0	22.0	85.0	22.0	晴	北	1.0	1.0
19	33.0	23.0	32.0	22.0	32.5	22.5	33.0	23.0	90.0	23.0	晴	北	1.0	1.0
20	34.0	24.0	33.0	23.0	33.5	23.5	34.0	24.0	95.0	24.0	晴	北	1.0	1.0
21	35.0	25.0	34.0	24.0	34.5	24.5	35.0	25.0	100.0	25.0	晴	北	1.0	1.0
22	36.0	26.0	35.0	25.0	35.5	25.5	36.0	26.0	105.0	26.0	晴	北	1.0	1.0
23	37.0	27.0	36.0	26.0	36.5	26.5	37.0	27.0	110.0	27.0	晴	北	1.0	1.0
24	38.0	28.0	37.0	27.0	37.5	27.5	38.0	28.0	115.0	28.0	晴	北	1.0	1.0
25	39.0	29.0	38.0	28.0	38.5	28.5	39.0	29.0	120.0	29.0	晴	北	1.0	1.0
26	40.0	30.0	39.0	29.0	39.5	29.5	40.0	30.0	125.0	30.0	晴	北	1.0	1.0
27	41.0	31.0	40.0	30.0	40.5	30.5	41.0	31.0	130.0	31.0	晴	北	1.0	1.0
28	42.0	32.0	41.0	31.0	41.5	31.5	42.0	32.0	135.0	32.0	晴	北	1.0	1.0
29	43.0	33.0	42.0	32.0	42.5	32.5	43.0	33.0	140.0	33.0	晴	北	1.0	1.0
30	44.0	34.0	43.0	33.0	43.5	33.5	44.0	34.0	145.0	34.0	晴	北	1.0	1.0
31	45.0	35.0	44.0	34.0	44.5	34.5	45.0	35.0	150.0	35.0	晴	北	1.0	1.0

編曆

編曆

曆象ノ業ハ本周年ニ於テ普通曆ノ體裁ヲ一變シ明治十  
 三年ヨリ日月ノ南中出沒及ヒ潮汐時分等ヲ增加シ太政  
 官ノ允可ニ據リ之ヲ頒曆商社ニ付セリ

地質

地質

地質ノ業ハ本周年ニ於テ山梨縣下甲斐國靜岡縣下伊豆  
 國ノ地質ヲ檢了シ甲斐國ハ既ニ報文ヲ呈セリ伊豆國ハ  
 従前ノ地圖ニ於テ地質圖トナスニ通用スヘキモノナキ  
 カ故ニ伊能氏ノ實測ニ基キ測量スル處ノモノヲ海軍省  
 水路局ノ海岸實測圖トヲ參考完備セルモノヲ製シ之ニ  
 載スルニ地質構成ノ區分ヲ以テセント欲シ其業稍々九  
 分ノ功ヲ奏セシモ其修整ノ如キハ暫ク之ヲ他日ニ期シ  
 茲ニ本年末尾ニ於テ地質測量擴張ノ許可ヲ得タリ後周

久

地誌

年ニ於テハ益其事業ハ區域ヲ擴メ地形土性化學ノ教科  
ヲ分掌シ以テ其成功ヲ期セントス

地誌

地誌ノ業ハ本周年ニ於テ郡村誌ヲ編修着手中ノ運ニ至  
レリト虽此地誌ヲ編修スル固ト之レ容易ノ事業ニアラ  
サレハ其全成ノ期ハ尚數年ノ後ニアラントス

地籍

地籍

地籍ノ業ハ土地ニ就テ萬般ニ關係ヲ有セリ其最大ナル  
部分ヲ占ムル者ハ地籍ノ編制國郡村町ノ沿革官民土地  
所有ノ變換官民土地所用ノ變換ナリトス故ニ逐次ニ之  
ヲ条列セントス

地籍編制

地籍編制

地籍編制ノ事業ハ定額常費ノ減殺ト明治十年第一号布  
告民費節減ノ趣旨ニ據リ一時急施ヲ止メ地方ニ於テ漸  
次着手スルニ任セシヲ以テ尔来新ニ着手セシ者ナシ只  
獨リ島根縣ノ前年ヨリ着手セシヲ繼續シ全管内ノ編制  
ヲ了セントスルモノアルノミ

郡區編制

郡區編制

明治十一年太政官第拾七号布告ヲ以テ全國郡區ノ制ヲ

定メラレタリ該郡區ノ編制タルヤ從前各地方之區畫ニ於ル汎ク施政ノ便利ニ基キ成立タルモノニ非サルカ故ニ制度畫一ナラス只地方ノ料理スルニ放任セシヲ以テ各地各制區々煩雜ヲ極メ竟ニ數百年來ノ習慣ヲ失ヒ人情ニ協ハサルモノ不少抑全國一統治ノ下ニ在テ制度ニ異同アルハ政治ノ宜シキヲ得タルモノニアラサレハ之ヲ改正整理シテ民俗慣行兩ナカラシ其宜ニ從ヒ及費途ヲ節シテ施政ニ便セントノ趣旨ナルニ據リ各府縣ニ於テモ丁寧反覆其所轄ノ地勢ヲ考察シ民情ノ如何ト施政ノ便宜ヲ推究シ着手スト雖凡地方ノ廣狹地勢ノ形况民情ノ如何ヲ究ムルニ當リ各地自ラ至難ノ場合ナキニアラス故ニ調査整理ノ時日モ亦隨テ多少ノ日子ヲ要セサルヲ得ス然レモ地方官ノ注意ニヨリ發令後率先シテ調理

ヲ終リシモノハ東京府岡山縣ヲ以テ最トス其他ハ漸次ニ調理ヲ畢リ遂ニ本年三月ニ至テ三府三十四縣ノ郡區編制調査ヲ整頓シタリ而シテ實地施行ヲ允許セラシ、トニ関シテハ明治十一年八月十五日付ヲ以太政官ニ具狀セラレ本省限リ一時允可シ置キ追テ取束指出スハキ、トニ決セラレタリ然而シテ堺縣ノ調査ヲ畢ラサルト沖繩縣置縣ノ日尚淺シテ郡區制ヲ施行シ難キ処アルヲ以テ全國郡區制施行上ニ未タ二縣ヲ欠クト雖凡既ニ談制施行濟ノ各府縣ハ別表ニ詳ス尚郡區制施行ニ就テ其著キモノヲ掲クベシ都會ノ地ハ人情利害郡村ト自ラ異同ナキ能ハサルヲ以テ其政治モ亦郡村ト平等スヘカラサル者アル故ニ別ニ區制ヲ存スル趣旨ニ基キ各府縣所轄内ニ於テ市街繁華



人民輻輳シ地形人情利害等郡村ト平等視スヘカラサル  
モノヲ擇テ新ニ區ヲ置クモノ其數三十五區東京府下ニ  
拾五區大坂府下ニ四區京都府下ニ三區ヲ置ケリ其他神  
奈川兵庫長崎新潟愛知宮城石川岡山廣島山口和歌山福  
岡熊本ノ各縣下ニハ各々一區ヲ置ケリ  
従前大郡ニシテ其統治ニ不便ナルモノハ之ヲ數郡ニ分  
割ス其大郡ヲ分割スルモノ四拾八郡トス其内大郡ヲ分  
割シタルモノ一郡ヲ以五分スルヲ最トス即岩手縣下陸  
中國閉伊郡青森縣下陸奥國津輕郡ニ新潟福島西縣下ニ  
跨ル越後國蒲原郡ニ於ケルカ如シ  
小郡ニシテ獨立スル能ハサル形狀アルモノハ之ヲ聯合  
シテ以テ一統轄ニ隸スルノ便利ナル者ハ之ヲ聯合スル  
ノ制ニ據リ其實地ノ便利ニ就テ之ヲ聯合スルモノハ殆

ト二百四十九郡ニ及ヒタリ此小郡ヲ聯合スルノ最モ多  
キ者ハ四郡即チ埴玉縣下武藏國大里播磨播磨男衾ノ四  
郡千葉縣下安房國安房平朝夷長狹ノ四郡トス此余二郡  
或ハ三郡ヲ聯合スル者ハ別表ニ詳ナリ  
従前ノ郡名ヲ存シ只郡界ノミノ組替ニ係ルモノハ神奈  
川縣下ニハ相模國足柄上郡足柄下郡ノ二郡兵庫縣下ニ  
ハ播磨國揖東飾東ノ二郡及同國明石美濃ノ兩郡新潟縣  
下ニハ越後國三島古志蒲原刈羽頸城ノ五郡千葉縣下ニ  
ハ上總國武射山邊ノ二郡茨城縣下ニハ常陸國鹿島茨城  
多賀久慈ノ四郡静岡縣下ニハ遠江國豊田長上周知ノ三  
郡滋賀縣ニハ近江國神崎愛知ノ二郡宮城縣下ニハ陸前  
國栗原登米玉造遠田ノ四郡岩手縣下ニハ陸中國紫波岩  
手膽澤和賀ノ四郡廣島縣下ニハ安藝國沼田佐伯ノ二郡

和歌山縣下ニハ紀伊國海部日高ノ二郡福岡縣下ニハ筑前國那珂糟屋ノ兩郡及筑後國三潴御井下妻山門竹野ノ七郡トス

從前ノ郡名ハ冠字ヲ設ケ而シテ郡界ヲ改正セシモノハ千葉縣下下總國東葛飾郡ト同國南相馬郡ナリ椽木縣下下野國寒川郡ナルモノハ郡境全ク同國都賀郡ニ孕在シ地形ニ於テ一郡獨立ノ体裁ヲ備ヘナルカ如シ故ニ寒川郡ヲシテ下都賀郡ノ新ニ分割セシモノハ聯合シタリ元來郡區編制方ニ於テハ從前獨立セル一郡ヲ分割セシ新郡ハ聯合セシムルヲ不許筭ナレバ該郡ノ如キハ不得止ヲ以テ特ニ此聯合ヲ施行セラレタルナリ

從前一郡ニシテ地形全ク兩分セルモノハ上下ノ冠字ヲ付シ兩郡トナセシモノハ岐阜縣下美濃國石津郡ト滋賀

縣下ノ近江國淺井郡ナリ

從前島ト單稱スル者郡區編制ノ際郡名ヲ設ケシモノハ鹿兒島縣下大隅國ノ五島ヲ大島郡トシテ餘トス

小笠原島ノ如キハ遠隔ノ孤島ニシテ一種特別ノ取扱ニ屬スレバ今回ノ郡區制ニハ關係ヲ有セサルナリ又東京府下伊豆國ニ屬セル伊豆七島ハ今回郡區制ヲ同時ニ施行スル能ハハレハ他日實際ノ形狀ヲ考量シ實施ノ見込該府ヨリ開申スヘキ筭ナリキ

郡區制ノ施行タルヤ前文述ルカ如シ而シテ各郡區及郡區役所ノ位地等ヲ詳スルヲ左表ノ如シ

制 一 覽 表

新		崎		長		津		兵	
瀨	後	崎	前	肥	馬	津	津	津	津
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
水		木		水		木		水	
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
城		野		長		津		兵	
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
振		島		川		石		田	
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
知		高		峻		山		歌	
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
波		阿		依		上		峻	
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
鹿		木		熱		分		大	
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

編 區 郡

川		神		坂		大		柳		京		京		東		赤	
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
馬		野		上		下		陸		常		房		安		松	
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
賀		江		近		山		網		降		知		愛		...	
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
扶		形		山		森		青		手		島		福		...	
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
日		山		島		廣		山		備		備		...		...	
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
鹿		木		熱		分		大		...		...		...		...	
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

國郡町村ノ變換

國郡町村境界ノ釐正ハ其數前年度ニ比レハ稍減少セシ  
ト雖且町村ノ分合復舊改稱等ニ至テハ却テ前年度ヨリ  
其數ヲ増加シタリ然ル所以ノモノハ其原因多端ナルベ  
シト虫氏要スルニ多クハ境界ノ錯雜ト地形ノ不便ニ屬  
スルト郡區ノ編制ニ據リ便利ノ為メニ出タルニアリト  
ス而シテ復舊合併分合等ニ至テハ費用ノ支出慣行ノ如何  
民情ノ協同セサルノ事故アルニ原由スベシ  
國界ノ釐正ニ係ルモノ静岡縣下ニハ駿河國志田郡ト遠  
江國榛原郡廣島縣下ニハ安藝國豊田郡ト備後國御調郡及  
安藝國高田郡ト備後國三次郡山梨長野兩縣下ニハ甲斐  
國巨摩郡ト信濃國諏訪郡トノ間ニ涉ル國界線ヲ正定セ  
ラレタリ

静岡縣下駿河國志田郡ト遠江國榛原郡ノ國界タル全郡  
源助村以西ハ大井川ノ中央ヲ以テ國界タルニ獨源助村  
以東ニ至リ突然界線ノ陸地ニ上リ道路或ハ狹少ノ河流  
ニ沿テ海濱ニ達スルハ蓋シ大井川漸次流水ノ方向ヲ變  
シ國界ノミ依旧其処ヲ移易セサルニアルベク又人情モ  
駿河ニ親シク風俗モ復タ駿河ニ同シキハ自ラ地形ノ然  
ラシムル処トルヲ以テ遠江國榛原郡源助村外十三ヶ村  
ヲ駿河國志田郡ニ組替右源助村以東大井川ノ中央ヲ以  
駿河遠江兩國ノ國界ト定メラレタリ  
廣島縣下安藝國豊田郡田ノ浦村宇下大須賀地内ト備後  
國御調郡西野村ノ内宇宮津トノ間ハ從前沼田川中央ヲ  
以國界ト定メラリシニ河流ノ瀬換地形ノ變移ニ據リ境  
界不明亮ニ屬セシヲ以更ニ田野浦村宇大須賀ノ地ヲ裂

テ備後國御調郡、編入西野村ノ内宇宮津新開ヲ裂テ右  
大須賀ト合併一村落トシ從來ノ既定國界豊田郡古地山  
御調郡勝山  
鼻ヨリ沼田川堤へ見通シ右堤外脚限北方ヲ備後國ト定  
メ沼田川全体ヲ安藝國ニ属セラレタリ又同縣下安藝國  
高田郡下甲立深瀬西村ヲ備後國三次郡上川立村ニ係ル  
國界ハ従前未定ナルニ依リ實際ノ地形ニ基キ其界線ヲ  
確定シ安藝國高田郡下甲立村ノ内反別三拾七町五反拾  
七步ヲ裂テ備後國三次郡上川立村ニ編入セラレタリ  
山梨縣下甲斐國巨摩郡小淵沢村ト長野縣下信濃國諏訪  
郡落合村ノ間ハハツ嶽ノ頂ニ係リ地形絶險ナルヨリ従  
前確定ノ界線ナク兩縣管治ノ分界明亮ナラサルヲ以更  
ニ既定ノ國界即小淵村字永沢ヨリ縮笠嶽ノ頂上ニ至リ  
夫ヨリ阿彌陀藥師ノ兩嶽ヲ経テ權現嶽へ引付右東部ヲ

甲斐國ハ西部ヲ信濃國ニ属セラレタリ  
郡界ノ釐正ハ静岡縣下ニハ伊豆國君澤郡大場村ト高田  
郡土沢村愛知縣下ニハ尾張國春日井郡清洲村中島郡西  
市場村ト全國海部郡廻間村外武ヶ村廣島縣下ニハ播磨  
國神東郡仁色新田外売ヶ村ト神西郡中野村滋賀縣下ニ  
ハ近江國滋賀郡南郷村ト粟太郡黒沢村及全國浅井郡三  
田村ト坂田郡千草村全國犬上郡北山崎村ト尾張國愛知  
郡山崎村トノ間ニ係ルモノヲ決定セラレタリ  
村界ノ釐正ハ三重縣下ニハ伊勢國度會郡慎柄浦ト勢浦  
山梨縣下ニハ甲斐國巨摩郡御影村ト白田村岐阜縣下ハ  
美濃國加茂郡則光村ト今村トノ間ニ係ルモノヲ決定セ  
テレタルナリ  
町村ノ合併ニ係ルモノハ其數貳百六拾貳分割ニ係ルモ



ノ其數三、復舊合併スルモノ其數二、復旧分割ニ係ルモノ其數十六、村町名ヲ改稱スルモノ八、六十八、新ニ名ヲ付セシモノ七、飛地ヲ組替タルモノ其數三千六百一ヶ所トリ尚其明細ナルト前周年ト本周年トノ比較ハ左表ニ於テ之ヲ詳セリ

表 革 治 市 村 郡 國		本 周 年	前 周 年 比 較
國 界 整 正	正	三	減
郡 界 整 正	正	二	減
村 町 界 整 正	正	五	減
村 町 合 併	併	二六六	二四二 増
同 復 旧 合 併	併	一	増
村 町 分 割	割	五	増
同 復 旧 分 割	割	一六	一〇 増
村 町 改 稱	稱	六八	九一 増
村 町 新 稱	稱	七	五 増
飛 地 組 替	替	五六〇	一五二 増

官民土地  
所有變換

官民土地所有變換

官民土地所有ノ變換タル前周年度ト本周年度トヲ比較スルハ官有地ノ前周年ヨリ増加スル一四万四千三百町歩余ニシテ本周年ニ於テ減スルモノ一万千九百六拾町歩余ナリ差引三万貳千三百三拾九町歩余ヲ本年度ニ於テ増加セシトリ然リ而シテ民有地ニ於テ前周年ヨリ増加スルモノ五千九百貳拾七町歩余本年度ニ於テ減スルモノ八千六百六拾六町歩余差引千七百六拾町歩ヲ増加セシナリ蓋シ官有地ノ増加セシモノハ地盤ノ漸次ニ整理シ或ハ官民未定地ノ所有確定ニ原因シ又民有地ノ増加セシハ所有ノ公定ニ據テ其民有ニ歸スヘキ地ヲ下渡シタルト官有地ヲ拂下タルノ許多ナルカ為メナリ而シテ官民未定地ノ獨リ本周年ニ増加ナク却テ前周年ト比較

スレハ三万四千百町步余ヲ減セシモ是亦地盤ノ整頓所  
有ノ確定ニ據ル今茲ニ官民有土地及官民未定地ノ總計  
ヲシテ前周年ト本周年ト差引比較スルキハ官民有地ハ  
皆其數ヲ増加シ官民未定地ハ皆其數ヲ減少セリ左表ニ  
於テ各地種ヲ細分シテ之ヲ詳明ス

地種	本年		前周年		増減
	計	比	計	比	
官有地	...	...	...	...	...
民有地	...	...	...	...	...
官民未定地	...	...	...	...	...
合計	...	...	...	...	...

官民有地  
所用變換

官民有地所用變換

土地所用ノ變換ハ各地方ヨリ本省ニ稟申セシモノヲ精  
査シ之ヲ總計シ前周年ト本周年トヲ比較スルニ官有地  
ニ於テハ官廳用地寺院地温冷泉地河岸地海附寄洲城塞等  
ノ如キ他ニ變換シテ前周年ヨリ本周年ニ其數ヲ減セシモノ  
四十貳百三十一町八反四畝七步ナリ其余ノ土地ハ皆其數ヲ  
前周年度ヨリ増加セリ其最モ著キモノヲ掲クレハ神社  
地ハ千百七拾九町七反六畝六步田地ハ千百四町五反六  
畝貳步畑地ハ貳千五拾五町八反八畝貳拾壹步山野ハ貳  
万六千四町四反六畝貳拾六步樹林ハ四千七百五拾九町  
五反貳拾五步ヲ増セリ民有地ノ一部分ニ於テ増加ノ著  
キ者ハ畑地ニ四百八拾壹町五反六畝貳拾壹步池沼湖ニ  
千百五拾四町三反壹畝九步荒蕪地ニ千貳百貳拾六町八



外國人貸地ナルモノハ即外國人居留地内外ヲ不問總テ外國人ニ貸渡セシモノニ係ル其貸地ノ現坪ハ五拾六萬五千四百八拾八坪五合九勺七才ナリ之ヲ前周年貸地ノ現坪五拾貳萬八千貳百四拾貳坪六勺三才ト差引キハ前周年ヨリ本周年ノ増加ハ八萬五百貳拾六坪五合六勺壹才ナリトス然ル所以ハ前周年ニ在テハ函館居留地内外外國人ハ貸地ノ調査中ニ係リシヲ以テ之ヲ掲ケス本周年ヨリ之ヲ掲ケシニ因ル而シテ無貸地東京府下及神奈川縣下ニ於テ三萬九百七拾坪八合四勺七才ヲ減シ更ニ貸地ノ部ニ四萬貳百七拾坪六合壹勺七才ヲ増加シタルモノハ各國公使館所用地ノ如キ地料ヲ拂フベキ性質ノ地ナルヲ料額ノ未決ニ係リテ地料未納中ナルモノヲ本周年ニ於テ其料額ヲ決定セラレタルニ依ルベシ其詳細

ナルハ  
表ノ如シ

外國人居留地内外		內地		外貸地		増地		減地		比較表	
例	坪	坪	坪	坪	坪	坪	坪	坪	坪	坪	坪
函館	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
青森	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
秋田	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
大坂	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
東京	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
神奈川	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
大阪	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
京都	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
兵庫	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
和歌山	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
奈良	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
高松	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
徳島	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
香川	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
岡山	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
広島	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
山口	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
福岡	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
佐賀	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
熊本	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
大分	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
宮崎	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
鹿児島	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
沖縄	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
合計	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

外國人貸地貸無貸貸渡シ地ノ現坪數ハ前文ノ如クナレハ地料ノ増加モ少キニ非サルベシト虽本年年度ニ於テ地料總額ノ徵收ヲ畢ラサルカ故ニ現ニ收入スル處ノ地料ニ於テハ其額拾萬千三百六拾四拾貳錢八厘ナレ

ハ之ヲ前周年現収入ノ地料拾万八千百三四五拾七銭壹厘ニ比フレハ前周年ヨリ本周年減額ハ六千七百四拾三圓拾四銭三厘トス然レモ本年度地料ノ皆済畢ラハ前周年ヨリ多少

収入額ノ増  
加アルハ疑  
ラ容レサル  
ナリ

表 較比 増入 收對 地質 外内 地器 居人 因外

例 登	宿 縣 名	本 年 度 收 入 額	前 年 度 收 入 額	増 減
半徑ノ通算ト見做シテ壹圓田ヲ以テ其ノ田徑ニハシテ下ク	岡 田 郡	1,100,000.00	1,050,000.00	50,000.00
	東 京 府	1,000,000.00	950,000.00	50,000.00
	大 坂 府	1,000,000.00	950,000.00	50,000.00
	神 奈 川 縣	1,000,000.00	950,000.00	50,000.00
	兵 庫 縣	1,000,000.00	950,000.00	50,000.00
	長 崎 縣	1,000,000.00	950,000.00	50,000.00
	新 潟 縣	1,000,000.00	950,000.00	50,000.00
合 計		10,000,000.00	9,500,000.00	500,000.00

定額常費

本周年ノ定額常費ハ其額九萬五千百三拾四圓五拾銭十

定額  
常費

リ前周年ニ任テハ其額拾五萬三百八拾三圓廿六銭ナリ  
而ノ前周年ト本周年ト比較セハ本周年ノ定額ハ五萬五  
千貳百四拾八圓七拾六銭ヲ減セシナリ抑此減額ヲ致セ  
シハ前周年ニ在テハ特議ヲ以該年限リ五萬圓ヲ増加セ  
ラレタルモノヲ最トシ其他數項ノ事故アルニ依ルナリ  
本周年ニ當リ定額ノ減少前文ノ如クナルヲ以諸般ノ施  
設ニ於テ非常ノ節減ヲ加ヘ又事務上ノ滯滞ヲ釀サ、ラ  
ン為ノ非常ノ注意ヲナシタルカ故ニ林政興張ノ一端ヲ  
ル樹木試驗場ノ區域ヲ曠メタルノミナラス樹木ノ陳列  
所ヲ構造シ又或ハ氣象ノ事業ヲ興起セン為ノ廣島縣下  
ニ測候所ヲ新設スル等ノ工事ヲ了シタリ之レ全ク諸費  
ヲ節儉シタルヨリ斯ク緊急ノ事業ヲ成功シ得タルノ有  
余ヲ生シタルナリ然リ而モ本周年度中消耗シタル諸費

各



科目ニ於テ最其多額ノ位置ヲ占メタルモノハ判任官ノ月給トス之ニ強シモノハ内國旅費ナリ然レモ之ヲ前周年度ニ比ッレハ判任官ノミノ月給ニテ九千貳百九拾九圓九拾壹錢六厘内國旅費科目ニテハ八千貳百五拾三圓九錢ヲ減セリ尚判任以下月給ノ總体額ニ於テ前周年ヨリ本周年ノ減スルモノハ殆ト九千四百七拾八圓四拾壹錢八厘ナリ然ル所以ノモノハ官林作業ノ為特ニ貸下ラレタル金額ノ内ヲ以テ作業課官員ノ月給ヲ仕拂タルト判任官ノ減シテ雇ノ増加セシニ因ルベシ又内國旅費ニ至リ前周年ヨリ本周年ノ方八千貳百五拾三圓九拾壹錢減スルモノハ官林事務ノ為又旅行スル者ノ日當ヲ減少セシト作業費ノ内ヲ以テ仕拂タルモノト官員派出ノ少キトニ在リ尚給與ノ科目及應中費山林費額外常費ノ科目

ニ於テ或ハ増シ或ハ減スル等ノモノ不少ト虽凡要スルニ本周年度ニ消耗セシ金額ハ九万五千六圓七拾六錢五厘ニシテ同年度ノ定額ヨリ金百貳拾七圓七拾三錢五厘ノ殘額ヲ生セシノミナラス前周年ト本周年ト消費ノ總額上ノ差引ニ於テ全ク四萬五千六百貳圓壹錢七厘ヲ本周年ニ減シタリ尚詳細ナル比較ハ表ニ詳ス

定額		前年		増減		比較	
科目	金額	科目	金額	科目	金額	科目	金額
官給	94,810.67	官給	94,810.67				
官給	10,000.00	官給	10,000.00				
官給	5,000.00	官給	5,000.00				
官給	2,000.00	官給	2,000.00				
官給	1,000.00	官給	1,000.00				
官給	500.00	官給	500.00				
官給	200.00	官給	200.00				
官給	100.00	官給	100.00				
官給	50.00	官給	50.00				
官給	20.00	官給	20.00				
官給	10.00	官給	10.00				
官給	5.00	官給	5.00				
官給	2.00	官給	2.00				
官給	1.00	官給	1.00				



事務ノ繁閑

本周年ニ於テ事務ノ繁多ヲ加ヘタルハ前數項ニ於テ明  
亮ナレバ茲ニ再ヒ揭スト至凡其毫モ繁多ノ著キモノハ  
林政上ニ関スル新施ノ事業ノ興リタルト郡區改正ノ二  
件ヲ以テ其著キモノトス今特ニ公文ノ數ヲ計算スルニ  
前周年ニ比フレハ六  
千二百二十九ノ増加  
ヲ見ルニ至ル之レ事  
務繁多ノ一端ヲ表ス  
ルニ足ルベシ依テ表  
ニ於テ増減ノ實數ヲ  
説明セリ

公文増減表														
計					總					別				
總計					總計					別				
合	小	中	大	計	總	總	總	總	總	總	總	總	總	總
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

戶籍局第四回年報

目次

- 人口 戸數 戸主比較表
- 出生
- 死亡 人員及出生死亡比較表  
種族戸主家族別分表
- 毎籍者ノ死亡原籍不明病死人等員數及埋葬費表
- 棄兒 棄兒増減及現在人員表
- 復族祿出願人ノ數 復族祿願人員表